

「成熟を目ざして」

1. はじめに

- ・ 聖書記者…確定していない。しかし元祭司であった人らしい (内容から)
- ・ 読者・宛先 …クリスチャンに改宗したユダヤ人。(内容から)
- ・ 記述年代…6 4 年頃
- ・ ヘブル書記者は元祭司、読者は改宗したユダヤ人。学んだ年数からすれば教師になっていなければならないにもかかわらず、霊的に幼子であった。そこで成熟を目ざそうと勧める。なぜなら初歩のままなら「義の教えに通じていない。経験によって良いものと悪いものを見分ける感覚が訓練されていない」。それは間違った方向へ行ってしまう危険があるとヘブル書記者は言う。(5 : 1 2, 1 3, 1 4 節)

2. 本文

- ・ (6 : 1 1) 「私たちの希望について十分な確信を持ち続けてくれるように切望します。」
- ・ (6 : 1 2) 「それは、あなたがたがなまけずに、信仰と忍耐によって約束の物を相続するあの人たちに、ならう者となるためです。」

・ 弟子の道

- ・ ヘブル書記者は読者に、成熟をめざす一番いい方法は「信仰と忍耐によって約束のものを相続するあの人たちに、ならう者となる」ことを勧める (1 2 節)。1 1 章にどのような人たちがいるのか記されています。「ならう者となりなさい。」マタイ 1 6 : 2 4 では、イエスは「だれでもわたしについて来たいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負い、そしてわたしについて来なさい。」と語られた。信じる者にとってイエスに従うことが重要なことであり、そこが欠けていると指摘する。そこで以下 3 つの事柄から「弟子」について考えてみたい。

a) キリストに従う—イエスが主である

- ・ 6 : 4 ~ 5 節にイエスを信じる者となったことを、こう記してあります。「一度光を受けて天からの賜物の味を知り、聖霊にあずかる者となり、神のすばらしいみことばと、後にやがて来る世の力とを味わった」者はクリスチャンとされる。しかし 6 : 6 節で墮落してしまうこともあり得ると指摘する。このようなクリスチャンに対して (1 2 : 4) 「あなたがたはまだ、罪と戦って、血を流すまで抵抗したことはありません。」(1 2 : 7) 「訓練と思って耐え忍びなさい」、と助言します。「キリストに従う」というとき、意味においても、イメージにおいてもピリピ 2 : 8 節「キリストは人としての性質をもって現れ、自分を卑しくし、死にまで従い、実に十字架の死にまでも (父なる神に) 従われたのです。」私たちも、イエス様が父なる神に忠実に従われたように、イエス・キリストに死に至るまで忠実に従わねばならない。
- ・ 山上の説教でイエスは八つの新しい原則 (マタイ 5 : 1 ~ 1 0) を弟子たちに学ぶよう求めました。それはこの世の原則とは正反対のものです。3 年間の伝道生活は弟子にとって模範となりました。キリストに従うことが自分にとって最高の価値、中心となっていったのです。

b) 聖霊によって歩む—新しい生き方

- ・ヘブル書13章全体は回心によって変えられた生活が書かれてあります。兄弟愛、不品行、貪欲の戒めなどですが、クリスチャンになるということは日常生活のなかでイエスに従うように聖霊の力を受けることを意味します。聖霊の働きは変えられた生活につながります。Ⅱコリント5：17「キリストのうちにあるなら」聖霊によって新しく造られ、新しくされます。一つは新しい生き方、次は新しい人間関係です。新しい生き方とはキリストの弟子として歩むことであり、新しい人間関係とは大勢いる私たちもキリストにあって一つであるということです。
- ・Ⅰコリ10：13「あなたがたの会った試練はみな人の知らないようなものではありません。」人間的な標準で試練を見れば、私たちは不安になり、その判断・対処の仕方に悪い影響を与えます。しかし新しい生き方は聖霊によって歩むということです。そこには主が共にいてくださいます。(マタイ28：20)

c) 教会に仕える一新しい人間関係

- ・6：10に「神は正しい方であって、あなたがたの行いを忘れず、あなたがたがこれまで聖徒たちに仕え、また今も仕えて神の御名のために示したあの愛をお忘れにならないのです。」ヘブル書記者は読者の霊的幼さを指摘しましたが、彼らの聖霊の実も語っています。それは彼らにとって救いにつながることです。イエスを信じた者は新しい人間関係が示されます。ローマ12：4～5に「一つのからだには多くの器官があって、すべての器官が同じ働きはしないのと同じように、大勢いる私たちも、キリストにあって一つのからだであり、一人一人互いに器官なのです。」「キリストにあって一つ。」はイエスを信じる者の新しい人間関係ですが、人間的な標準の思いでは人間関係はむしろバラバラが当然と考えます。しかし私たちの信仰と価値観の中心はイエス・キリストです。「ならう者となる」ことによって私たちは、イエス・キリストが主であり、新しい生き方が示され、新しい人間関係が与えられるのです。

2. 終わりに

- ・ヘブル書のおわりに(13：20～21)こう書かれてあります。

「永遠の契約の血による羊の大牧者、私たちの主イエスを死者の中から導き出された平和の神が、イエス・キリストにより、御前でみこころにかなうことを私たちのうちに行い、あなたがたがみこころを行うことができるために、すべての良いことについて、あなたがたを完全な者としてくださいますように。」

簡単に言いますと、良い行いができるようにという祈りです。その良い行いは「キリストに従うこと」なのです。しかもその良い行いは、「私たちは神の作品であって、良い行いをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。神は、私たちが良い行いに歩むように、その良い行いをもあらかじめ備えて下さったのです。(ピリピ2：8)」神の愛と恵み、その豊かさの上に私たちは立っているのです。